

田中秀夫教授 略歴及び研究業績目録

略 歴

氏 名 田 中 秀 夫
本 籍 滋賀県
生年月日 昭和24年1月8日
現 在 京都大学名誉教授

学 歴

昭和42年3月 滋賀県立八日市高等学校卒業
昭和42年4月 滋賀大学経済学部経済学科入学
昭和46年3月 同上卒業（学士学位）
昭和46年4月 滋賀大学経済学専攻科進学
昭和47年3月 同上終了
昭和48年4月 京都大学大学院経済学研究科修士課程入学
昭和50年3月 同上終了（修士学位）
昭和50年4月 京都大学大学院経済学研究科博士課程進学
昭和53年3月 同上単取得
平成5年5月 京都大学博士（経済学）学位取得（京都大学論経博129号）

職 歴

昭和54年4月 関西大学経済学部，商学部，第二部非常勤講師（昭和56年3月まで）
昭和55年4月 龍谷大学経済学部非常勤講師（昭和56年3月まで）
昭和55年4月 日本学術振興会奨励研究員（昭和56年3月まで）
昭和56年4月 甲南大学経済学部講師
昭和58年4月 甲南大学経済学部助教授
昭和63年4月 甲南大学経済学部教授
平成2年3月 甲南大学退職
平成2年4月 京都大学経済学部助教授
平成5年12月 京都大学経済学部教授
平成8年4月 京都大学大学院経済学研究科教授
平成8年4月 連合王国にて在外研究（平成9年1月まで） エディンバラ大学，オックスフォード大
学等
平成17年4月 京都大学評議員（平成19年3月まで）

平成22年4月 京都大学大学院経済学研究科長・学部長（平成24年3月まで）

平成25年3月 同上定年退職

平成25年4月 愛知学院大学経済学部教授

令和1年4月 同上客員教授

令和3年3月 同上退職

中華人民共和国人民大学经济学院客員教授（平成22年から24年）

学会および社会における活動

経済学史学会 会員（昭和51年から現在まで）、幹事（平成10年から16年、平成20年から23年）、代表幹事（平成27年4月から平成29年3月）

社会思想史学会 会員（昭和51年から現在まで）、幹事（平成7年から15年、平成19年から）

日本イギリス哲学会 会員（昭和51年から令和3年）、理事（昭和63年から）、会長（平成16年から17年）、名誉会員（令和3年から）

日本18世紀学会、政治思想学会の会員（現在は退会）

Eighteenth-Century Scottish Studies Society 会員（昭和63年から現在まで）

Hume Society 会員（平成9年から 現在は退会）

英国王立歴史学会海外会員 Corresponding Fellow of Royal Historical Society（平成16年から現在まで）

ピッカリング社編集顧問 Pickering and Chatto, The Enlightenment World Series, Advisory Editor（平成19年から 現在は終了）

京都大学学術出版会理事（平成19年から平成25年まで）

文部科学省・日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員、特別研究員等審査会専門委員（平成15年、21年、その他）

その他

他大学の非常勤講師・研究員

甲南大学時代 高知大学（平成元年） 京都大学（平成元年）

京都大学時代 龍谷大学（平成2年から3年） 甲南大学（平成2年から5年、平成7年から8年）

滋賀大学（平成3年、平成20年） 放送大学（平成21年）

大阪商業大学比較地域研究所嘱託研究員（平成14年）

研究業績一覧

単著

『スコットランド啓蒙思想史研究—文明社会と国制』	名古屋大学出版会	1991年
『文明社会と公共精神—スコットランド啓蒙の地層』	昭和堂	1996年
『共和主義と啓蒙—思想史の視野から』	ミネルヴァ書房	1998年
『啓蒙と改革—ジョン・ミラー研究』	名古屋大学出版会	1999年
『社会の学問の革新—自然法思想から社会科学へ』	ナカニシヤ出版	2002年
『原点探訪 アダム・スミスの足跡』	法律文化社	2002年
『アメリカ啓蒙の群像—スコットランド啓蒙の影の下で1723-1801』	名古屋大学出版会	2012年
『近代社会とは何か—ケンブリッジ学派とスコットランド啓蒙』	京都大学学術出版会	2013年
『啓蒙の射程と思想家の旅』	未来社	2013年
『スコットランド啓蒙とは何か』	ミネルヴァ書房	2014年

編著

『追想 田中真晴先生』	京都大学田中秀夫研究室 非売品	2002年
『啓蒙のエピステーメーと経済学の生誕』	京都大学学術出版会	2008年
『野蛮と啓蒙—経済思想史からの接近』	京都大学学術出版会	2014年

共編著

The Rise of Political Economy in the Scottish Enlightenment, eds. by Sakamoto and Tanaka, Routledge, 2003.

『共和主義の思想空間』(山脇直司と)	名古屋大学出版会	2006年
『啓蒙と社会—文明観の変容』(佐々木武と)	京都大学学術出版会	2011年

共著

『スコットランド啓蒙思想研究』(田中正司編)	北樹出版	1988年
『社会思想史の構図』(城塚登編)	八千代出版	1989年
『スコットランド啓蒙と経済学の形成』(田中敏弘編)	日本経済評論社	1989年
『政治思想史の方法』(小笠原弘親・飯島昇蔵編)	早稲田大学出版会	1990年
『経済学史 課題と展望』(経済学史学会編)	九州大学出版会	1992年
『社会思想史を学ぶ人のために』(平井俊彦編)	世界思想社	1994年
『再構築する近代』(京大社会思想研究会)	全国学士会	1997年
『自由主義経済思想の比較研究』(田中真晴編)	名古屋大学出版会	1997年
Shionoya and Yagi eds., <i>Competition, Trust, and Cooperation</i> , Springer. 2001		
『欧米における公と私』(佐々木毅・金泰昌編)	東京大学出版会	2002年
『思想学の現在と未来』(田中浩編)	未来社	2009年
『徳・商業・文明社会』(坂本達哉・長尾伸一編)	京都大学学術出版会	2015年

翻訳・単独訳

J・G・A・ポーコック『徳・商業・歴史』（第3編は省略）	みすず書房	1993年
A・O・ハーシュマン『方法としての自己破壊—現実的可能性を求めて』	法政大学出版局	2004年
ヒューム『政治論集』（近代社会思想コレクション04）	京都大学学術出版会	2010年
キャロライン・ロビンズ『イギリス18世紀のコモンウェルスマン』	ミネルヴァ書房	2020年
J・G・A・ポーコック『野蠻と宗教 I エドワード・ギボンの啓蒙』	名古屋大学出版会	2021年

翻訳・共訳

F・ハイエク『市場・知識・自由』（共訳者：田中真晴）	ミネルヴァ書房	1986年
R. D. コリソン・ブラック『経済思想と現代』（田中敏弘監訳）	日本経済評論社	1988年
Q・スキナー『思想史とはなにか』（半澤孝磨・加藤節監訳）	岩波書店	1990年
I・ホント, M・イグナティエフ編『富と徳—スコットランド啓蒙における経済学の形成』（水田洋・杉山忠平監訳）	未来社	1990年
J. G. A. ポーコック『マキアヴェリアン・モーメント』（共訳者：奥田敬・森岡邦泰）	名古屋大学出版会	2008年
ハチスン『道徳哲学序説』（共訳者：津田耕一）	京都大学学術出版会	2009年
ケイズ『道徳と自然宗教の原理』（共訳者：増田みどり）	京都大学学術出版会	2016年
I・ホント『商業社会の政治学』（共訳者：村井明彦）	昭和堂	2019年

監訳

H・T・ディキンソン『自由と所有』（中澤信彦他訳）	ナカニシヤ出版	2006年
L・ロビンズ『一経済学者の自伝』（平野嘉孝他訳）	ミネルヴァ書房	2009年
I・ホント『貿易の嫉妬』（渡辺恵一他訳）	昭和堂	2009年
D・フォーブズ『ヒュームの哲学的政治学』（犬塚元他訳）	昭和堂	2011年
J・シュナイウィンド『自律の創成—近代道徳哲学史』（逸見修二訳）	法政大学出版局	2011年
ロンルド・L・ミック『社会科学と高貴ならざる未開人—18世紀ヨーロッパにおける四段階理論の出現』（村井路子・野原慎司訳）	昭和堂	2015年
C・ベリー『スコットランド啓蒙における商業社会の理念』（林直樹・村井明彦その他訳）	ミネルヴァ書房	2016年
D・ウートラム『啓蒙』（逸見修二他訳）	法政大学出版局	2017年

論文

1. 「ホッブズ社会哲学形成史における「歴史」の意味—ホッブズ社会哲学の成立過程（1）」
『経済論叢』（京都大学経済学会）第117巻5・6号, 1976年6月
2. 「ホッブズの初期論説「トゥキユディデースの生涯と歴史」について—ホッブズ社会哲学の成立過程（2）」
『経済論叢』第119巻4・5号, 1977年5月
3. 「ヒューム経済理論の特質と意義—ヒューム文明社会論の祖型」
『経済論叢』第122巻3・4号, 1978年10月

4. 「ヒュームの学問・技芸論—ヒュームの文明社会史論の祖型」
『経済論叢』第123巻1・2号, 1979年2月
5. 「ホッブズにおける政治社会の構造」
社会思想史学会年報『社会思想史研究』第3号, 1979年10月
6. 「ヒュームのアメリカ論—『ヒューム書簡集』より」
『甲南経済学論集』第22巻2号, 1981年9月
7. 「ジョン・ミラー研究序説(1)」
『甲南経済学論集』第23巻1号, 1982年6月
8. 「ジョン・ミラー研究序説(2)」
『甲南経済学論集』第23巻3号, 1983年1月
9. 「ジョン・ミラー研究序説(3)」
『甲南経済学論集』第24巻1号, 1983年6月
10. 「ジョン・ミラー研究序説(4)—ミラーの奴隷制史論」
『甲南経済学論集』第24巻3号, 1984年2月
11. 「ポーコック思想史学とスコットランド啓蒙(上)」
『甲南経済学論集』第25巻2号, 1984年10月
12. 「ファーガソンのアメリカ論と文明社会論—プライス『市民的自由』を批判する匿名小冊子の紹介を中心」
『甲南経済学論集』第25巻4号, 1985年3月
13. 「サー・ジョン・ダルリンブルの封建社会論と限嗣封土権論争」
『彦根論叢』(松尾博教授退官記念論文集)第234・235号, 1985年11月
14. 「スコットランド啓蒙における民兵論争の意義」
『甲南経済学論集』第26巻3号, 1986年2月
15. 「ポーコック思想史学とスコットランド啓蒙(下)」
『甲南経済学論集』第26巻4号, 1986年3月
16. 「18世紀スコットランドの限嗣封土権問題とケイズ脚(上)」
『甲南経済学論集』第27巻2号, 1986年9月
17. 「わが国における最近のヒューム研究の動向—ヒュームの「人間の科学」と『イギリス史』」
『社会思想史研究』第10号, 1986年10月
18. 「18世紀スコットランドの限嗣封土権問題とケイズ脚(下)」
『甲南経済学論集』第27巻3号, 1986年12月
19. 「エコノミストとしてのケイズ脚—ヒューム・タッカー論争とケイズの経済思想」
『甲南経済学論集』第27巻4号, 1987年3月
20. 「スコットランド啓蒙におけるルソー(上)」
『甲南経済学論集』第28巻2号, 1987年9月
21. 「スコットランド啓蒙におけるルソー(下)」
『甲南経済学論集』第28巻3号, 1987年12月
22. 「ジョン・ミラーにおける「政治」と「科学」—『イギリス統治史論』への序章」
『甲南経済学論集』第28巻4号, 1988年3月
23. 「ケイズ脚におけるユートピアと改革」
田中正司編『スコットランド啓蒙思想研究』北樹出版, 1988年6月
24. 「ジョン・ミラーとフランス革命」
『経済論叢』第141巻6号, 1988年6月
25. 「スコットランドにおけるフランス革命の一端」
『甲南経済学論集』第29巻4号, 1989年3月
26. 「古典派経済学の成立と自由主義思想の展開」
城塚登編『社会思想史の構図』八千代出版, 1989年4月
27. 「アダム・スミスとジョン・ミラー—市民社会史の成立と自然法学の変容」
田中敏弘編『スコットランド啓蒙と経済学の形成』日本経済評論社, 1989年10月
28. 「スコットランド啓蒙—最近の研究動向」
『経済学史学会年報』第27号, 1989年11月
29. 「イギリスの国制と歴史認識—ヒューム政体論の前提」
『甲南経済学論集』第30巻3号, 1989年12月

30. 「J. G. A. ボーコック—政治言語のパラダイムの歴史」
小笠原・飯島編『政治思想史の方法』早稲田大学出版会, 1990年4月
31. 「ヒュームの宗教観とスコットランド啓蒙の精神風土」
『甲南経済学論集』第31巻4号, 1991年3月
32. 「ケイムズ卿とスコットランド啓蒙」 『アダム・スミスの会会報』第61号, 1991年3月
33. 「スコットランド啓蒙における「社会変動」の認識」
社会変動研究会(京都大学)『社会経済システム変動の研究課題』, 1992年3月
34. 「スコットランド啓蒙と経済学」
経済学史学会編『経済学史:課題と展望』九州大学出版会, 1992年11月
35. 「スコットランド啓蒙における商業と軍事」 『経済論叢』第150巻第5・6号, 1992年7・8月
36. 「『国富論』におけるスミスの国防論」 『経済論叢』第151巻第1・2・3号, 1993年1・2・3月
37. 「ジョン・ミラーにおける商業社会と軍事精神」
『経済論叢』第151巻第4・5・6号, 1993年4・5・6月
38. 「近代自然法思想とイギリス啓蒙思想」
平井俊彦編『社会思想史を学ぶ人のために』世界思想社, 1994年5月
39. “Lord Kames as an Economist”, *Kyoto Economic Review*, Vol. 63. No.2. 1994, 10
40. 「内田義彦とイギリス思想史研究」 『経済論叢』第157巻第5・6号, 1995年5・6月
41. 「社会の学問の革新—モンテスキューとスコットランド啓蒙」
『経済論叢』第156巻第4号, 1995年10月
42. 「「権威の原理」と「功利の原理」—ヒューム・スミス・ミラー」 『思想』879号, 1997年9月
43. 「文明社会とは何か—ヒュームにおける社会科学の特質とその形成—
—坂本達哉『ヒュームの文明社会』創文社, 1995年をめぐって」
『三田学会雑誌』第90巻第3号, 1997年10月
44. 「先行パラダイムとスミスの経済学—自由主義経済思想の形成過程」
田中真晴編著『自由主義経済思想の比較研究』名古屋大学出版会, 1997年
45. “Adam Smith's Studies in Japan”,
Kyoto University, Faculty of Economics, Working Paper, nos.36-37.1997
46. “David Hume and the Scottish Enlightenment in Japan”, *Ibid.*,
Kyoto University, Faculty of Economics, Working Paper, no.38.1997
47. 「近代国家と公共圏—思想史と経験から」
京大社会思想研究会『再構築する近代』全国学士会, 1997年
48. 「「富国—貧国論争」とミラーの商業=自由論—ジョン・ミラーの経済思想(1)」
『経済論叢』第165巻第5・6号, 2000年5・6月
49. 「近代イギリスにおける公私観念の大転換—絶対主義の公共性から市民の公共性へ」
『日本の公私観念の特徴と諸外国における観念転換』 将来世代国際財団, 2000年7月
50. 「労働疎外論の—源泉—ジョン・ミラーの経済思想(2)」
『経済論叢』第166巻第1号, 2000年7月
51. 「商業・富裕と徳の変化—ジョン・ミラーの経済思想(3)」
『経済論叢』第166巻第2号, 2000年8月
52. 「正義と寛大・商業との関連で—ジョン・ミラーの経済思想(4)」
『経済論叢』第166巻第5・6号, 2000年11・12月

53. "Contemporary Relevance of the Idea of 'Sympathy' in Adam Smith", in Shionoya and Yagi eds., *Competition, Trust, and Cooperation*, Springer. 2001
54. 「ミラーの思想を考える」 『アダム・スミスの会会報』第68号, 2001年2月
55. 「スコットランド啓蒙研究の学史的可能性」 『経済学史学会年報』第39号, 2001年5月
56. 「近代イギリスにおける公私観念の転換—絶対主義の公共性から市民の公共性へ」
佐々木毅・金泰昌 『欧米における公と私』東京大学出版会, 2002年1月
57. 「18世紀ブリテンにおける社会秩序観の転換—モラル・エコノミーとポリティカル・エコノミー」
大阪商業大学 『地域と社会』第5号, 2002年8月
58. 「法と統治の科学の進歩—ジョン・ミラーの経済思想(5)」
『経済論叢』第170巻第4号, 2002年10月
59. 「「市民社会と徳」序説」 『調査と研究』第25号, 2002年10月
60. 「白杉庄一郎のアダム・スミス研究」 『経済論叢』第172巻第3号, 2003年9月
61. 「啓蒙と野蛮—スコットランド啓蒙研究の可能性」 『経済論叢』第173巻第2号, 2004年2月
62. 「ヒュームの労働認識の特徴と意義」 『経済論叢』第174巻第1号, 2004年7月
63. 「帝国の夢を弾劾する—アダム・スミスの商業ヒューマニズムと共和主義」
『思想』972号, 2005年4月号
64. 「啓蒙, 共和主義, 経済学—偶然を超えて」 『イギリス哲学研究』第26号, 2006年3月
65. 「戦後啓蒙, 市民社会論, ケンブリッジ思想史研究への関心」 『調査と研究』, 2006年4月
66. 「ベンジャミン・フランクリン—アメリカ啓蒙の起源」
『経済論叢』第178巻5・6号, 2006年12月
67. "Beyond the Ambivalent View of Commercial Society: Commerce, Industry, and Alienation in the Scottish Enlightenment",
International Journal of Public Affairs, Vol. 3. 2007
68. 「辺境の啓蒙—スコットランド啓蒙のアメリカ啓蒙への影響」 『高知論叢』第88号, 2007年3月
69. 「第三代アーガイル公爵のハイランド経済改革」 『経済論叢』第180巻第2号, 2007年8月
70. 「啓蒙と改革—18世紀研究の視座」 『未来』, 2008年1月号
田中浩編 『思想学の現在と未来』未来社, 2009年に修正のうえ再録
71. 「ガーショム・カーマイケルの自然法学」 『経済論叢』第181巻第3号, 2008年3月
72. 「序論 復活する共和主義—その様々な可能性」, 「総括」
『社会思想史研究』第32号, 2008年9月
73. 「トマス・リードの生涯とスコットランド啓蒙」 『経済論叢』第183巻第1号, 2009年1月
74. 「ロンドン・スクールとフランクフルト学派—1930年代のイギリス社会思想の一齣」
『経済論叢』第183巻第3号(八木紀一郎教授記念号), 2009年7月
75. 「トマス・リードの道徳哲学と経済認識」 『経済論叢』第183巻第4号, 2009年10月
76. 「ガーショム・カーマイケルの自然法学」 『経済論叢』第181巻第3号, 2008年3月
77. 「自然法, 共和主義, スコットランド啓蒙—水田文庫と私の学問」
『名古屋大学附属図書館年報』第9号, 2010年3月
78. 「ヨーロッパ啓蒙—共和主義と世界市民主義を中心に」 『調査と研究』第36号, 2010年4月
79. "The Influence of the Scottish Enlightenment on the American Enlightenment",
Kyoto Economic Review, Vol. 79. No.2, Dec. 2010
80. 「ターンプルの道徳哲学」 『経済論叢』第184巻第4号, 2010年10月
81. 「自己愛の時代の始まり—スミスとルソーの自己愛論」 『現代のエスプリ』522号, 2011年1月号

82. 「ヒュームとエディンバラ大学道徳哲学講座」 『経済論叢』 第185巻第4号, 2011年10月
83. 「ヒュームにおけるポリティカル・エコノミーの形成—商業ヒューマニズムの誕生」
『思想』 No. 1052, 2011年11月
84. 「小林昇経済学史の根底にあるもの」 『調査と研究』 第38号, 2012年10月
85. 「アメリカ植民地の形成—大ブリテンの文脈から」 『経済論叢』 第186巻1号, 2013年3月
86. 「アダム・スミスの歴史観—文明の発展, 停滞, 衰退の論理」
(関西学院) 『経済学論究』 第67巻第1号, 2013年6月(篠原久教授退職記念号)
87. 「英語圏啓蒙思想についての研究」 『社会思想史研究』 No.37, 2013年9月
88. 「ライオネル・ロビンズの生涯と思想」
愛知学院大学経済学部 『経済学研究』 第1巻第1号, 2013年9月
89. Tanaka Masaharu (1925-2000) -His Economic Study and Thought in Historical Contexts, *The History of Economic Thought*, The Japanese Society for the History of Economic Thought, 55-2, pp.1-19, 2014.1
90. 「トマス・ホリスとアメリカ革命」
愛知学院大学経済学部 『経済学研究』 第1巻第2号, 2014年3月
91. 「スコットランド啓蒙研究の最近の動向」(渡辺恵一氏と共著)
愛知学院大学経済学部 『経済学研究』 第2巻第2号, 2015年3月
92. 「キャロライン・ロビンズの生涯と仕事」
愛知学院大学経済学部 『経済学研究』 第3巻第2号 2016年3月
93. 「ヒュームの文明社会論における戦争と国家」
『経済論叢』 第190巻第2号, 2016年9月(特集の編集と寄稿)
94. 「啓蒙, 郷土愛, 国民国家—コスモポリタニズム, 共和主義, ナショナリズム」
『経済学研究』 第4巻第2号, 2017年3月
95. 「アダム・スミスの学問論」 『経済学研究』 第5巻第1号, 2017年9月
96. 「排除から抱擁へ, あるいは急進から穏健, 保守へ——イングランド啓蒙思想史への序章」
『経済学研究』 第5巻第2号, 2018年3月
97. 「アダム・スミス研究を回顧する」 『経済学研究』 第6巻第1号, 2018年9月
98. 「スコットランド啓蒙の拡散と終焉——道徳哲学の解体と経済学の発展」
『経済学研究』 第6巻第2号, 2019年3月(学史学会講演)
99. 「ハチスン, スミス, ミラーの共和主義——なぜ日本で理解が困難なのか」
『経済学研究』 第7巻第1号, 2019年9月(国際アダム・スミス学会〔中止〕に用意した英文の邦訳)
100. 「中江兆民と共和主義」 『経済学研究』 第7巻第2号, 2020年3月
101. 「東大経済と京大経済—伝統と学風」 『経友』 No. 206, 東京大学経友会, 2020年2月

研究ノート・書評論文

- 書評論文 「啓蒙の時代の「証言」として—H. フィールディング著, 鳥居塚正訳『リスボン渡航記』」
『経済評論』 第41巻第2号, 1992年2月
- 書評論文 「甦るファーガスン—天羽康夫『ファーガスンとスコットランド啓蒙』, 1993年」
『高知論叢』 第51号, 1994年11月
- 書評論文 「中矢俊博・柳田芳伸編著『マルサス派の経済学者たち』日本経済評論社, 2000年」
関西大学『経済論集』 第50巻第3号, 2000年12月

- 研究ノート 「トマス・リードとコモンセンス学派研究の現段階」(太子堂正称と共著)
『経済論叢』第167巻第5・6号, 2001年5・6月
- 研究ノート 「アダム・スミスの政治学をめぐって」 『経済論叢』第169巻第1号, 2002年1月
- 研究ノート 「アダム・スミスの学問方法論をめぐって」 『経済論叢』第169巻第2号, 2002年2月
- 研究ノート 「アダム・スミスの法学」(川名雄一郎と共著)
『経済論叢』第170巻第6号, 2002年11・12月
- 研究ノート 「アルヴィ博士のアダム・スミス研究」(村井明彦と共著)
『経済論叢』第174巻第2号, 2004年8月
- 研究ノート 「ディキンソン教授のリチャード・プライス研究」(村井路子と共著)
『経済論叢』第176巻第5・6号, 2005年12月

書評

- Sher, R.B., *Church and University in the Scottish Enlightenment: The Moderate Literati of Edinburgh*, Edinburgh University Press, 1985; *John Robertson, The Scottish Enlightenment and the Militia Issue*, John Donald: Edinburgh, 1985. 『経済学史学会年報』第25号, 1987年11月
- 斎藤・田中・杖下編『デイヴィッド・ヒューム研究』お茶の水書房, 1987年
『社会思想史研究』第12号, 1988年9月
- 田中正司『アダム・スミスの自然法学』お茶の水書房, 1988年
『日本18世紀学会年報』4, 1989年6月
- R. B. Sher and J. R. Smitten eds., *Scotland and America in the Age of the Enlightenment*, Edinburgh University Press, 1990. 『日本18世紀学会年報』6, 1991年6月
- R. B. Sher and J. R. Smitten eds., *Scotland and America in the Age of the Enlightenment*, Edinburgh University Press, 1990. 『経済学史学会年報』第29号, 1991年11月
- 野沢敏治『社会形成と諸国民の富』岩波書店, 1991年 『日本18世紀学会年報』7, 1992年6月
- David Allan, *Virtue, Learning and the Scottish Enlightenment*, Edinburgh University Press, 1993.
『日本18世紀学会年報』9, 1994年6月
- 関源太郎『「経済社会」形成の経済思想—18世紀スコットランド「経済改良」思想の研究』, ミネルヴァ書房, 1994年 一橋大学『経済研究』第47巻第3号, 1996年7月
- 永山良平『社会契約説と人類学』木鐸社, 1996年 『イギリス哲学年報』25号, 1998年3月
- 三浦永光『ジョン・ロックの市民的世界—人権・知性・自然観』未来社, 1997年
『社会思想史研究』第22号, 1998年10月
- Stewart J. Brown ed., *William Robertson and the Expansion of Empire*, Cambridge University Press, 1997.
『経済学史学会年報』第36号, 1998年10月
- Christopher Berry, *Social Theory of the Scottish Enlightenment*, Edinburgh University Press, 1997.
『日本18世紀学会年報』14, 1999年6月
- 小柳公洋『スコットランド啓蒙思想研究』九州大学出版会, 1999年
『経済学史学会年報』第38号, 2000年11月
- Colin Kidd, *British Identities before Nationalism: Ethnicity and Nationhood in the Atlantic World*, Cambridge UNIVERSITY PRESS., 1999. 『イギリス哲学研究』第24号, 2001年3月
- The Scottish Enlightenment: Essays in Reinterpretation*, ed. by Paul Wood, Rochester, NY: University of Rochester Press, 2000, x+399p. 『経済学史学会年報』第40号, 2001年11月

- 水田洋『思想の国際転位—比較思想史的研究』名古屋大学出版会, 2000年
 『イギリス哲学研究』第25号, 2002年3月
- Jonathan Scott, *The Commonwealth Principles, Republican Writing of the English Revolution*, Cambridge University Press, 2004.
 『イギリス哲学研究』第29号, 2006年3月
- フリートウッド, 佐々木健介他訳『ハイエクのポリティカル・エコノミー』法政大学出版局, 2006年
 『週刊東洋経済』, 2006年6月24日号
- 坂本昌成『法の支配—オーストリア学派の自由論と国家論』勁草書房, 2006年
 『週刊東洋経済』, 2006年9月2日号
- 犬塚元『デイヴィッド・ヒュームの政治学』東京大学出版会, 2006年
 『社会思想史研究』第30号, 2006年9月
- 田中浩『思想学事始め—戦後社会科学形成史の一断面』未来社, 2006年
 『イギリス哲学研究』第31号, 2008年3月
- Sher, R.B., *The Enlightenment and the Book* (The University of Chicago Press, 2006); Emerson, R.L., *Academic Patronage in the Scottish Enlightenment* (Edinburgh University Press, 2008)
 『経済学史研究』第51巻第1号, 2009年7月
- スコットランド文明社会史と福澤諭吉の思想形成—アルバート・M・クレイグ著『文明と啓蒙 初期福澤諭吉の思想』(足立康・梅津順一訳), 2009年10月
 『三田評論』No.1130, 2010年1月
- 坂本達哉『ヒューム 希望の懐疑主義—ある社会科学の誕生』慶應義塾大学出版会, 2011年
 『社会思想史研究』第36号, 2012年9月
- Christopher Berry, *Essays on Hume, Smith and the Scottish Enlightenment* (Edinburgh Studies in Scottish Philosophy) 2018, Newsletter of the ECSSS, 2020.

学会記事

- 「スマウト教授講演会」 『経済論叢』第160巻第5・6号, 1997年11月
- 「リーバーマン教授講演会—ベンサムにおける経済と政治」 『経済論叢』第165巻第4号, 2000年4月
- 「テン教授講演会」 『経済論叢』第165巻第5・6号, 2000年5・6月
- 「合邦と18世紀スコットランドの文化的アイデンティティ 国際会議」
 『イギリス哲学研究』第26号, 2003年3月

辞典項目

- 「社会契約説」 『経済学大辞典』3, 東洋経済新報社, 1978年
- 「スコットランド啓蒙」 『経済学辞典』第三版, 岩波書店, 1992年
- “John Millar” *Dictionary of the Eighteenth-Century British Philosophers*, Thoemmes, 1999
- 「啓蒙思想」, 「ホップズ」, 「ケイムズ」, 「トーニー」 『経済思想史辞典』丸善, 2000年
- 「オーガスタン論争」, 「共和主義」, 「理神論」, 「ディセンター」
 『イギリス哲学思想辞典』研究社出版, 2007年
- 「スコットランド啓蒙」 『社会思想史辞典』丸善出版, 2019年

エッセイ・追悼文など

- 「醒めた知性と優しい心根」 『山口和男先生追悼集』, 1987年4月
「経済学部の古典文献に思う」 『静脩』 Vol. 37. No. 1, 2000年5月
(追憶文)「弔辞」 『経済論叢』 第166巻第4号 (田中真晴名誉教授追悼記念), 2000年10月
「田中先生と共に過ごした日々」 『追想 田中真晴先生』, 2002年3月
「啓蒙の哲学的対話」 『Mile Post』 第9号 (大阪商業大学比較地域研究所), 2003年2月
「重商主義の普遍性と歴史性」 『経済学史学会年報』 第43号, 2003年6月
「豪放磊落と繊細さ」 『経済論叢』 第172巻第4号 (平井俊彦名誉教授追悼記念), 2003年10月
「平井俊彦会員を偲んで」 日本イギリス哲学会, 学会通信第40号, 2003年11月
「川上肇記念講演会 あいさつ」 『経済論叢』 第176巻第5・6号, 2005年12月
「富も徳もある社会」 『京大広報』 No. 627, 2007年10月
「私の研究」 『京都大学経済学部同窓会会報』 第10号, 2008年9月10日
「一つの時代の終焉」 『環 小特集 杉原四郎』 藤原書店, 第39号, 2009年8月
「ごあいさつ 経済学部の現状と未来」 『京都大学経済学部同窓会会報』 第13号, 2010年9月1日
「小林昇先生と京都」 『回想 小林昇』 (服部正治・竹本洋編) 日本経済評論社, 2011年12月

聞き取り

- 「京大におけるスミス研究—出口勇蔵先生からの聞き取り」 (聞き手: 水田洋・竹本洋・田中秀夫)
『経済評論』 第40巻第4号, 1991年4月

対談

- 「小国のアイデンティティを考える—スコットランドを中心に」 (高橋哲雄氏と)
大阪商業大学『地域と社会』 第3号, 2000年8月

資料編集

- 「甲南大学所蔵・経済学古典 (古版本) 目録」 (1981年6月現在)
『甲南経済学論集』 第26巻第1号, 1985年7月

科学研究費・研究成果報告書 (冊子)

- 平成16年 「近代共和主義の系譜とその現代的可能性の研究」 (2003年3月)
平成19年 「近代のイングランドとその近隣英語圏における啓蒙思想と経済学形成の相互関係の研究」
(2006年3月)
平成22年 「啓蒙思想と経済学形成の関連を問う—グローバルな視点から」 (2009年3月)